

# 鳥獣対策ボードゲームの活用による地域の合意形成の試み（埼玉県農作物鳥獣被害防止指導者育成研修）

- 住民役、ハンター役、有害鳥獣役を設定し、ボードゲームを通じて、住民とハンターが協力して有害鳥獣を捕獲することを考える。逃げ切れるか、捕獲できるか、まさに**人間と有害鳥獣との知恵比べ**。
- 住民が侵入防止柵を設置したり、目撃情報をハンターに提供。ハンターは目撃情報などを基に有害鳥獣を追跡。**地域関係者すべてがメインプレイヤーであることを体感**。地域一丸となった被害防止対策の円滑な体制作りを推進。

## ○鳥獣対策ボードゲームの概要

- ・地域の地形、農地、道路、河川の状況等からマップを作成。
- ・ゲームは2～6人で実施。（有害鳥獣役1人、ハンター役1人、住民役2～4人。）  
（2人で行う場合は有害鳥獣役とそれ以外に分かれて実施。）
- ・有害鳥獣・ハンター・住民の駒、餌の駒、対策（柵等）の駒を用意。
- ・住民は餌の除去、柵の設置等により有害鳥獣の行動を抑制しつつ、目撃情報をハンターへ通報。ハンターは目撃情報をもとに有害鳥獣を追跡。有害鳥獣は餌を食べながら移動。（位置がわからないようにプレー中は有害鳥獣の駒は置かず番号を記録）
- ・地域一丸となって知恵を絞り、対策を講じれば、有害鳥獣を捕獲できることを体感。

対策（柵等）のコマ   ハンター・住民のコマ

餌のコマ

有害鳥獣の  
コマ



## ○研修の様子



<スクリーンを使った解説>



<鳥獣対策ボードゲームを体感>



<考案者の今井氏によるアドバイス>



<ゲーム後の振り返り>

## ○研修参加者の主な声

- ・百聞は一見にしかず。説明を聞いているだけではよくわからなかったが、実際にやってみると**地域住民も傍観者でいられないことが理解**してもらえると感じた。2回体感したが、**ルールも難しくない**と感じた。
- ・捕獲のためには、**餌の除去、柵の設置も大事**だということがよく理解できると感じた。
- ・有害鳥獣は相談できないが、**人間は相談できる**。情報の共有など**一致団結することの重要性が理解できる**と思う。
- ・楽しく考えながら学べる。地域の**意識醸成には有効なツール**。地図から作成すれば地域の弱点もわかる。